

## 2021年度野球規則改正の要点解説

日本高等学校野球連盟  
審判規則委員会

注: ( ) 内数字は今回改正された12項目の符号

- (1) 「提訴試合」が認められなくなったことにより、「提訴」に関する文言が削除された。アマチュア野球は、以前から提訴試合は認めていない。[関連規則下記(8)(9)(10)(12)参照]
- (2) 投手は投球に際して、軸足、自由な足のどちらも本塁方向へ一度ステップし、それから再度ステップすることは許されない。正規の投球ではない。
- (3) ファウルチップの正規の捕球の解釈として、チップしたボールが最初に捕手の手またはミットに触れなくても、捕手の身体または用具に触れて跳ね返ったものを捕手が地上に落ちる前に捕球すれば、正規の捕球となる。なお、捕手が身体または用具に手またはミットをかぶせるように捕球しても、しっかりボールをコントロールできていれば、正規の捕球となる。[関連規則下記(11)参照]
- (4) 先発投手または救援投手は、連続する3人の打者を完了するか、イニング交代まで投球する義務があるが、我が国ではこの規則を適用しない。
- (5) ファウルボールに対する守備を走者が妨害した場合は、故意であるか否かに関係なく、アウトの対象者は、原則「走者」であり、2アウトであった場合は、当該打者の打撃は完了したとみなし(次のイニングの先頭打者は次打者とする)、0または1アウトの場合は、当該打者はファウルボールとする。記録上は、2アウトであった場合は、打者に「打数1・残塁1」が記録される。また、6.01(a)(2)「ファウルとまだ決まらない打球を故意に狂わせた場合」においても、同様の処置をとる。
- (6) 競技場内に入ることを公認された人の妨害(バットボーイ・ボールボーイ・警察官など)における「故意の妨害」の事例を、より具体的に明記した。
- (7) 出場停止処分中の対象者の行動制限について、追加された。アマチュア野球では、この内容については適用外である。
- (8) 「提訴試合」および「提訴」に関する文言が削除され、審判員への異議について「提訴」することが許されなくなった。
- (9) 「提訴試合」に関する文言が削除され、別に文言が加筆された。
- (10) 「提訴試合」および「提訴」に関する文言が削除された。
- (11) ファウルチップの正規の捕球の解釈変更に伴い、一部文言が削除された。
- (12) 「提訴試合」に関する文言が削除された。

以上